

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュ未広			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 17日 ~ 2025年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	2人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 17日 ~ 2025年 12月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数)	9人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	異年齢のお子様との関わりが持てることで、将来像絵を描きやすい点です。	普段関わりの少ない小学生のお兄さんやお姉さんとの関わりが出来るよう、イベントなどで一緒に行動をするなど楽しみながら他者との関わりや集団への参加ができるようにしています。 年上の子がやっている動きや行動を見て、将来自分もできるようになりたいと明確な目標を持つことができるよう意識をして支援しています。その中で、運動能力の向上や基本的な生活習慣の習得などにつなげています。	他事業所との交流を増やし、さらに異年齢の交流を深めることで、他者への理解や集団行動の習得につなげていきます。また、普段関わらない子たちとの交流を通して、課題に対して、子どもたちの内側からやる気を引き出すきっかけ作りに努めます。
2	遊びを通して、専門的な視点でお困り感の解消をできるが職員が在籍しています。	子どもたちの楽しい気持ちを引き出しつつ、発達段階に合わせて療育ができるようにMTGで共有し、共通認識をもって支援をしています。 職員が子どもたちと同じように体を動かすことで、体の使い方や加減、感覚の調整を楽しみながら身に着けられるようにしています。	より専門的な視点で療育ができるよう、外部の研修などにも参加し常に学んでいく姿勢を持ち、知識の習得をしていくように努めます。
3	子どもたちが自己選択ができる機会をたくさん設けています。	遊びやおやつなど、選択する機会をたくさん設けることで、自己決定力を養えるように意識をしています。また、自己選択する中で、心理的安全性を担保することで取り組みやすい環境づくりに努めています。	自己選択ができるようになった子には、選んだ理由や結果を振り返る機会を設け、選択肢や役割を段階的に広げ、自己決定力や自立につながる支援の充実を図っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	未就学のお子さんが少ないこともあり、未就学の子同士でのかかわりが少ない。	一人遊びが好きな児発のお子さんが多く、個々の遊びが中心になってしまふ。	発達の段階に合わせて、個々の遊びは尊重しつつ、無理なく年齢の近いお子さんと関わることができるようにスタッフからきっかけを作って、いろんな刺激を入れられるようにしていきます。
2	未就学のお子さんが長期休暇中のイベントの参加が難しい時がある。	保育園に通われている未就学のお子さんは、イベント参加の時間的制約があつたり、できなかつたりする場合がある。	児発用のイベントなどを多く取り入れていき、参加しやすい環境を作っていく。遠慮される親御様にも安心して参加できるイベントを考えていき、頼って頂ける環境を整えていきます。
3			